

JAUW 茨城支部だより 2015 年度-4 号

URL <http://jauw-ibaraki.net/> 2016年3月5日 一般社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発行

光の春から、命息づく弥生 3 月を迎えました。皆様、いかがお過ごしでいらっしゃいますか？去る2月13日、連盟30周年記念「連盟のつどい」が、レイクエコーで開催され、わが支部から10名が参加されました。一昨年振りにバザーにも出店し、活動資金も得ることが出来ました。バザー用の衣類や日用雑貨等を沢山提供して下さった皆様、ありがとうございました。にわか万屋で強力な売り子になって活躍された皆様、お蔭さまで 5 万円以上の収益がありました。大切に活動資金として使わせて頂きます。

さて、今年の最大の事業は、自費出版ではない本の制作出版です。従来通りの支部報告書でなく、ハードルの高い事業に着手した訳は、先輩の会員からのアドバイスや長谷川先生からのご推薦を戴いた事、会員諸氏のやろうという堅い意志に支えられたからです。「温故知新」という言葉がありますが、代々の支部長が丹念にまとめてこられた報告書を整理し、新しい時代へつなぎ、若い世代へ伝え活かせる本制作に、汗を流していきたいと編集委員一同、只今奮闘中です。支部長経験者の皆様のご指導、アドバイスを頂きながら、読み易く買ってもらえる本制作に尽力して参ります。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

また、支部会員全員参加の本づくりのため、会員から寄稿文をまとめる事になりました。内容・字数・締切・送り先等は以下の通りです。原稿はファックスでも受け付けますが、なるべくメールで送って頂ければと思います。また、総会当日に手書き原稿をお持ち下さっても大丈夫です。手書き用の原稿も同封いたしました。また、名前はイニシャルでお願いします。例えば、私の場合は加藤光子で、M・Kとなります。全会員の皆様の原稿寄稿をお待ちしています。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

(支部長：加藤)



- ◇ 内容 「茨城支部会員の地域で生きる私の顔」
(支部活動に限定せず、個人としての地域の関わり等も含みます)
- ◇ 字数 300字以内
- ◇ 締切 総会前の4月22日まで



茨城支部総会のお知らせ



場所	水戸市福祉ボランティア会館 中研修室
日時	平成 28 年 4 月 23 日(土)午後 1 時～
申込	同封ハガキで(3 月 20 日必着)
内容	総会 1 時～1 時半 本出版にあたってのフリートーク 1 時半～ 一文真堂の前野社長と長谷川幸介先生を囲んで— ※総会に先立って、中研修室で午前 11 時から役員会を行います。

平成 27 年度女性団体等人材育成セミナーに参加して

12 月 5・6 日の 2 日間で 5 つの講義が行われた。

① 「災害と復興・女性の力」〈長谷川典子氏〉

9 月の水害の状況・災害対策の問題点と長谷川氏が地元の女性達と協力して果たした役割を具体的に聞くことが出来た。「ボランティアは『今何が自分に出来るかを考える』『相手の思いをおもんばかり』事が大切」と話されたことが印象に残った。

② 「日立グループにおける経営戦略としてのダイバーシティ推進」〈武内和子氏〉

出産育児休暇や時短勤務など様々な働き方をする従業員がいると会社の負担が増すと思っていたが、どんな働き方しても利益を削ぐことなく経営に役立つように人事制度の対策や工夫をされていることが説明された。大企業だから可能なことだと思う部分もあったが、時代を先取りした戦略であると感心した。

③ 「女性が輝く社会づくり」〈森田百合子氏〉

茨城県の女性活躍に向けた取り組みと現状の説明を受けた。社会全体の「意識改革」が必要と述べられていた。

④ 「成功するカギはしぐさにある」〈安達和子氏〉

メラビアンの法則によると初対面の人にどんなイメージを持つかは、55%視覚情報（見た目・表情・しぐさ・視線）からだと言われている。好印象をあたえる立ち振る舞いに必要な和の心、江戸しぐさや笑顔の重要性を語られていた。このことは仕事だけでなく日常でも大切なことであり、そのための日々の努力も大切だと感じた。

⑤ 「女性が夢を叶えるために知っておきたいこと」〈和田由香氏〉

「女子高生はなぜ歩道を横に広がって歩くの?」「なぜ援助交際をするの?」普段考えもしない問いかけに戸惑いながら今の若者について理解し子供達を守るための対応方法も学ぶことが出来た。グループ討議もあり楽しく学べた。

2 日間連続で 1 日中講義を聞くのは大変だったが、どの講義もとても面白く興味深いお話が聞けて勉強になった。少しでもこのセミナーで得たことを生かしていきたいと思う。 (H・K)

茨城県女性団体連盟30周年記念「連盟のつどい」

今年度のハーモニーライト研修はフィンランドに行かれたそうです。フィンランドは、「自分がしたいことをし、自分がなりたいものになる」という考え方があり、ワークライフバランスの実現には、社会にも自分にも選択肢があることが大切、その多様な働き方が多様な生き方を作っているという報告がありました。続く基調講演は、大崎敬子国連統計部次長様によ



る「国際貢献と女性」でした。「すでに200万人以上の外国人が住んでいる日本において、もはや単一民族国家という概念が当てはまらないのではないか。このような社会では、外国人と平和で調和のとれた共存のために協力することも国際貢献の一つである。そのためには生活レベルでの行き届いたコミュニケーションが不可欠であり、その一役を担うのは女性である。」という話が心に残りました。私も国際社



会の一員としての自覚を持ち、外国人が多く住む常総市で身近な国際貢献から始めたいと思います。最後は「災害復興と女性の力」というパネルディスカッションでした。「災害はいつでも起こり得ると肝に命じること。各々の立場でやれる事・やる事があり、地域に根差した活躍をする事も女性の大切な役割である。」という話がありました。私も防災・減災・復旧・復興などの意思決定の場に女性が少ない事に問題を感じています。より女性が参加できる仕組みが必要だと思います。(A・K)



和やかに開催された新年会 一京成ホテル
森田百合子女性政策統括監・川上美智子会員とともに

「MY WAY 駆け抜けた70年 まだゴールは遠く」をお聞きして3つの点で感銘しました。1点目は、戦後の混乱の中、妊娠7か月という身重なお体で単身、引き上げて来られたお母様のお話です。2点目は、教育の力です。子どもにとって教育が大事なことを深く理解され小学校から受験もさせるなど、娘さんたちの経済的自立を願っていらっしゃる素晴らしいご両親だったのではないのでしょうか。学芸大附属豊島小学校、小金井中学校での先生方がどれだけ優れた教育実践を展開されていたかを髣髴とさせるお話がありました、



今でも日本を代表する優秀な教育環境で有名な両校です。そこで、伸び伸びとご成長されてお茶の水女子大学に入学されたこと。3点目は、ご専門の研究はもとより社会に大きく貢献されるきっかけの一つが JAUW の海外派遣の体験だった点を挙げられている事です。

まさに社会の環境がたとえどんなに厳しくとも「良き種は良き苗となり、よき苗は良き幹を作り、よき幹は良き実をつける」の言葉通りに駆け抜けられた 70 年の濃密な人生に万歳と感銘深く伺いました。今までのご経験を活かされ、新設の保育園の園長としてのご活躍と更なる香りの研究のご成功を心よりお祈り申し上げます。

(N・S)



新入会員紹介 E・Sさん

みなさん、こんにちは。

大学女性協会茨城支部に入会をさせていただき、心より感謝を申し上げます。新年会では、先輩たちのパワーに圧倒され、また、子連れの私を温かく迎えてくださり、ありがとうございました。

昭和 51 年 1 月 20 日に生まれた私は、2 倍の成人式を迎えて 40 代の仲間入りをはたしました。大学を卒業し、研修医を行い、カンボジアの病院で働き、結婚もして、アメリカでの生活が始まり、娘を出産して、夫は事故で天国に先立ち、日本に戻りました。そして、34 歳の私は茨城県議会議員になり 6 年がたちます。39 歳には、医療政策、医療経済の学問をしっかりと学びたく大学院に入り勉強しております。

これからも茨城県のために、頑張ります。どうぞ、よろしく願いいたします。

